

【城陽市】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

本市で独自に実施した「校内通信ネットワーク環境整備調査」（令和6年10月実施）の結果では、全ての小中学校でネットワーク速度が「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（※1）（以下「推奨帯域」という）を下回っている。

なお、併せて実施した体感調査では、通信が遅いと感じる時間が「ない」と回答した学校が3校（20.0％）である一方で、「毎日ある」と回答した学校は15校中5校（33.3％）となっている。

（調査結果）

	ネットワーク入口速度 (Mbps)	国基準速度 (Mbps)	体感調査（通信が遅いと感じる時間） （校数）			
			毎日	週に数回	月に数回	なし
小学校	197	433	2	4	1	3
中学校	235	444	3	2	0	0
全体	209	437	5	6	1	3

※1 文部科学省が令和6年4月に公表。学校規模ごとに1校当たりの帯域（速度）の目安を設定したもの。同時に全ての授業において、多数の児童生徒が高頻度で端末を利活用する場合にも、ネットワークを原因とする支障がほぼ生じない水準となる。
なお、文部科学省の調査では、令和5年11月の時点で推奨帯域を満たす学校は小規模校を中心に全国で2割程度に留まるとされる。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメント（※2）による課題特定のスケジュール

令和7年度中をめどとして、市独自調査による検証を行う。なお、現行ネットワーク機器については保守期限到達後に順次更新を予定しているため、外部委託によるネットワークアセスメントを行う予定はないが、必要であれば学校単位で実施を検討する。

※2 ネットワークに接続されている機器等の構成要素や外部通信回線の速度を評価し、課題の把握や原因箇所の特定を行うこと。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

本市では令和2年度に児童生徒1人1台タブレット端末の配備を完了し、併せて端末活用のためのネットワーク回線の増強を順次実施してきたところである。ネットワーク回線のうち学校外部の回線契約等については一定充足されていると予想されることから、今後は学校内部のネットワーク機器の保証期間が終了する令和7年度から8年度以降に、機器の更新を検討する。また、ネットワークの活用状況を見ながら、機器の仕様等を精査する。

<ネットワーク回線整備経過>

平成30年度～令和2年度 学校内無線LAN環境整備

令和2年9月及び令和6年4月 学校外部通信回線の見直し

令和7年4月以降 ネットワーク機器の更新の検討

令和7年7・8月 通信環境調査（以降毎年実施）